

令和6年度

特色ある学校づくり

— 実践報告書 —

令和7年3月

亀山市教育委員会

は じ め に

今、日本の社会は、グローバル化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題に直面しています。このような状況の中をたくましく生きていく人材を育てるには、豊かな人間性や社会性、主体的・協働的に学ぶ力と周囲の人とのコミュニケーション力など、様々な力を育むとともに、個性を生かしその能力を十分に発揮することが必要になってきています。一人ひとりの個性を生かす教育を行うためには、学校全体を多様な学び方ができるような創造的で柔軟なものにしていく必要があります。「特色ある学校づくり」はそのような教育を実現するためのものです。各学校が子どもたちや地域の実態等を十分踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開すれば、一人ひとりの個性を生かして、生きる力を育む教育が可能になっていくのです。

亀山市におきましては、「亀山市学校教育ビジョン」のもと、亀山の豊かな自然や歴史文化、芸術・芸能などを大切な教育資源として活用する教育を進め、各校における学校運営協議会等の組織や人的環境を活用し、地域ならではの創意や工夫、強みを活かした特色ある学校づくりを推進してまいりました。

今後も、各校が地域の教育資源を最大限に活かした独創的な教育活動を展開し、魅力に満ちた特色ある学校づくりを行うことで、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」の育成、「心の教育の充実」を図るとともに、より一層地域から信頼される学校づくりを目指してまいります。

結びに、本事業の取組に関しまして、多大なご支援・ご協力を賜りました保護者・地域の皆様、関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

令和 7 年 3 月

亀 山 市 教 育 委 員 会

目 次

各学校の取り組み

- ・「居心地!居場所!意欲!」3愛(I)のある学校

～こどもたちの多様性を活かし、

家庭・地域とともに歩む学校づくり～

亀山市立亀山西小学校

- ・地域の中で生き生きと学び、豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成

亀山市立亀山東小学校

- ・地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～

亀山市立昼生小学校

- ・地域の中で、みんなで生き生きと学べ!!川崎っ子

亀山市立川崎小学校

- ・生きてはたらく力の育成

～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～

亀山市立野登小学校

- ・であい、ふれあい、そして 未来へ

～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～

亀山市立白川小学校

- ・つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子

亀山市立神辺小学校

・笑顔いっぱい！進んでチャレンジする井田川っ子の育成

亀山市立井田川小学校

・みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成

亀山市立亀山南小学校

・じぶんで なかまと ふるさとから 夢豊かに学ぶ しあわせに
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、なかまと共に、自ら取り組む子の育成～

亀山市立関小学校

・「加太を大切に思う子の育成」

～子どもたちが生き生きと活動するために～

亀山市立加太小学校

・地域を支え次代を担うたくましい人づくり

～地域とともに生徒が育つ学校をめざして～

亀山市立亀山中学校

・学校・保護者・地域が一体となった人づくり

～心豊かにたくましく 居心地のよい学校を目指して～

亀山市立中部中学校

・幸せ関中学校計画

～子どもたちの夢を叶えるために～

亀山市立関中学校

各学校の取組

「居心地!居場所!意欲!」 3愛(I)のある学校 ～子どもたちの多様性を活かし、 家庭・地域とともに歩む学校づくり～

亀山市立亀山西小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

「確かな学力・豊かな心・健やかな体を育み、家庭・地域とともに歩む活気ある学校」をつくるために、学校運営協議会を中心とした保護者・地域との連携と協働による特色ある教育活動をすすめた。本年度は次の3点を行動計画の重点目標として設定し、取り組んだ。

(1) 子どもの意欲を高める

- ・学力・体力の向上 ・子どもたちが自ら課題を見つけ、解決する力の育成
- ・体験活動、ICT、図書館などを活用し、子ども主体の授業づくり

(2) 居心地のよい、安心・安全な居場所づくり

- ・多文化共生、特別支援教育、人権教育、命の教育の推進
- ・不登校の未然防止と不登校児童の居場所づくりと学力保障

(3) 学校と家庭・地域・教育機関との連携

- ・PTAとの協働的・学校づくり
- ・保幼小中特との学びと育ちの連携・交流活動

2 具体的な実践

(1) 子どもの意欲を高める

①朝の学習の時間を活用した補充学習の実施

②教材・教具の作成(家庭科、総合的な学習の時間・生活科、外国語、家庭学習、補充学習、日本語指導、ICT 活用教材等)

実生活や実社会につながる課題を設定した授業を行うとともに研修会や授業研究会においても協働的で対話的な学びを育む授業づくり、教材研究を進め、児童の主体的、対話的で深い学びにつなげることができた。

③指導力向上に係る研修会や OJT の実施

(国語科、家庭科、総合的な学習の時間・生活科、多文化共生、特別支援教育、生徒指導等)

大学教授及び文部科学省調査官を招聘し、研修会を実施した。教科専門的な視点から学び、知見を広げるとともに、児童が主体的・対話的に考え、学ぶ授業づくりに向けた教職員の指導力向上につなげることができた。

『外国につながる児童生徒のことばの力の捉えと指導・支援の仕方
について』

豊田市立西保見小学校教諭 伊藤 敦子先生

『家庭科教育について』

三重大学 村田 晋太郎先生、

文部科学省家庭科教育教科調査官 熊谷 有紀子先生

④「書く力」「読む力・読み取る力」の育成に係る取組の実施

(朝読、図書館まつり、市立図書館との連携、本に慣れ親しむ活動)

⑤しろやま集会等の発表の場を活用した子どもを主体とした活動

児童会役員と学校運営協議会役員で話し合う「亀山西小学校の未来を語り合う会」を2回開催した。今後の児童会が主体的に活動するためにどうしていけばさらに良い学校になるかについて委員の方と直接意見交流を行えたことで、児童の実践意欲が大きく高まった。

【学校の勉強がわかる91.5%】

【教職員は学習の基礎基・本が定着するよう工夫している。93.5%】



(2)居心地のよい、安心・安全な居場所づくり

- ・児童会を中心として行ったあいさつ運動や、有志によるNHK合唱コンクールへの参加等を通して達成感を得るとともに、自己肯定感を育んだ。
- ・多文化共生、特別支援教育、命の教育（助産師林みち子先生）、なかまづくり、考える道徳科の授業を行う中で、多様性について考えを深め、自他を大切にする気持ちを高めた。
- ・いじめアンケートの実施や児童一人ひとりとの教育相談、校内ふれあい教室の活用等を通じて、いじめ・不登校の未然防止、安心・安全な居場所づくりにつながった。

【児童に声掛け、ほめ、認めを行っている。96.3%】

【教職員は子どもの気持ちに寄り添った指をしている。86.2%】

【学校での生活は楽しい。95.9%】

(3)学校と家庭・地域・教育機関との連携づくり

①家庭・地域との協働活動（PTAとの協働的活動・保幼小中特が連携した学びと育ちのための交流体験）

職場体験学習として中学校生徒の受入、保幼小連携事業に係る園児の小学校訪問（年3回）、特別支援学校に通う居住地児童との交流を行った。校種を超えた交流の機会を持つことで、地域とのつながりを意識できるようになった。

②地域の教育資源を生かした授業の実践、ゲストティーチャー、学校ボランティアの活用

地域の方との交流会を企画・実施し、日頃の感謝の気持ちを伝えた。地域の方の思いに触れたことをきっかけに、自分たちにできることを考えた。ゲストティーチャーやボランティアの方との関わりから興味関心を広げ、主体的に学ぶ姿へつながった。

【学会などでは、自分の意見が言えている。88.0%】

【学校は保護者地域住民と連携しながら子どもたちを指導している。

92.6%】



3 成果と課題

<成果>

- ・保護者、地域の方々の協力を得ながら、体験的な教育活動（スポーツ鬼ごっこ・民生委員の方の紙芝居等）を取り入れ、成果を上げることができた。

【体験活動で地域の方から教えてもらう学習の肯定的評価97.9%（児童アンケート）】

- ・「子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくり」の実践がすすんだ。

【「学校での生活は楽しい」肯定的評価95.9%（児童アンケート）】

【「みんなで何かをするのが楽しい」肯定的評価97.9%（児童アンケート）】

- ・授業の中で自分の考えを言葉で表現し、主体的に学ぼうとする児童が増えてきた。
また、児童会を中心に全校への発信する場での積極的な姿は全校へ広がっている。

【学習、授業のなかでの話し合いで、自分の意見が言えていますか。88.0%】

<課題>

- ・学校教育活動全体を通して、児童が主体的に考え、進んで意見を言える学級・授業づくりを進める。

【「学会などの話し合いで自分の意見が言えていますか。」の82.9%】

- ・地域の中の学校（自分たち）という視点を持ち、地域の方とのつながりを深めていく。

【登下校であった地域の方に、あいさつはできていますか90.1%】

地域の中で生き生きと学び



豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成

子どもたちが生き生きと楽しく学ぶ学校

一人ひとりの子どもに居場所がある学校

保護者地域と教職員が手を取り合って進む学校

亀山市立亀山東小学校

1. 特色ある学校づくりの概要

本校では、「地域の中で生き生きと学び 豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成」の実現のため、本年も3点を柱に特色ある教育活動をすすめた。

- ①主体的・協働的な学びを育む授業改善と学力定着
- ②仲間とともにつながり合い、高まり合う学級づくり
- ③保護者・地域とともにある学校づくり

2. 具体的な実践

(1) 主体的・協働的な学びを育む授業改善と学力定着の取組

児童に授業規律が身につくように、話の聴き方、発表の仕方、姿勢、声の大きさなど“学習の約束”を学びの土台とし、基礎基本の定着に向け取り組みを進めた。「朝の学習の時間(英語、国語など)の設定」「“いえ学”や“学びノート”の習慣化」「タブレットを使い、学習したことの整理やeライブラリ等の活用」などである。本年は、さらに児童が“やってみたい”と思える協働による学習機会を設け、相手の話の要旨を聞き取る力をつけることや、相手に伝わる話し方を整理して伝える力の育成を図った。グループ内、異学年間、地域の方々と協働する場面を設定した。目的のある活動場面となるため主体的に取り組むことができ児童の意欲を高める学習となった。

学級内グループで



異学年間で



地域の方と(亀山高校生)



(2) 仲間とともにつながり合い、高まり合う学級づくりを進める取組

QU 調査や仲間づくりアンケートを実施し学級づくりに努めるとともに、各学年の発達に応じた人権学習

いじめ防止ポスター



いのちの教育(助産師)



を行い身近にある差別について話し合う機会を設けた。ピンクシャツデー(いじめストップの日)を取り入れ、児童による掲示物の作成などの取組につながった。また、高学年ではゲストティーチャーとして弁護士による「いじめ予防教室」の他、助産師による命の大切さを学び、すべての人に等しく人権があることを学んだ。

(3) 保護者・地域とともにある学校づくりを進める取組

本校は、地域の「ひと・もの・こと」から学ぶ学習が特色の一つとなっている。農業・商業・工業の産業のほか、自然環境、災害、防犯、消防、歴史、市民活動など学年に応じたテーマで学んでいる。積極的に地域からゲストティーチャーを招き、キャリア教育として一人ひとりが6年間で40活動あまり行う学習体系となっている。地域の学校である亀山高校や保育園・幼稚園とも学習の機会をもち、つながりのある教育も特徴の一つである。また本校にある陰涼寺山を低学年で自然を学ぶ教材としており、地域の「ひと・もの・こと」に関心をつなげるきっかけとなっている。6年生になるとこれらの積み上げをもとに、亀山市へ児童が出店し地域への主体的な発信の場とした。

	地域関連学習(抜粋)		地域関連学習(抜粋)
1年	ダイコン栽培(地域人材) 三園交流「秋まつり」 (第二愛児園、亀山愛児園、亀山東幼稚園) 陰涼寺山自然観察会(亀山市役所職員)	4年	花しょうぶ苑交流訪問 総合環境センター出前授業 亀山高校生出前授業(福祉、情報教育など) 敬老会(本町まちづくり協議会)
2年	町たんけん地域の人からの聞き取り活動 (東町商店街、本町、栄町など) 亀山歴史博物館見学 陰涼寺山自然観察会(亀山市役所職員)	5年	米作り体験(豊若会) 亀山高校生出前授業(プログラミング学習) 三園交流訪問 (第二愛児園、亀山愛児園、亀山東幼稚園)
3年	地域の今昔を学ぶ活動 (旧東海道、お茶、東小学校の今昔) 施設見学(消防署、警察、カメヤマローソク) 江ヶ室交番による出前授業	6年	商店聞き取り探検(地域飲食店) 百五銀行出前授業(起業体験学習) 民生委員による出前授業 亀山市出店

低学年 陰涼寺山自然観察会



3年生 江ヶ室交番出前授業



4年生 花しょうぶ苑交流



6年生 民生委員出前授業



3. 成果と課題(学校評価アンケートより)

【成果】

◎地域の“ひと・もの・こと”を教育内容や学習方法として積極的に取り入れ、学年に応じたキャリア教育の積み上げを一層すすめることができた。

児童:「先生は分かりやすく教えてくれる」【肯定的意見 95.2%】

保護者:「学校は地域の“人・もの・こと”を活用した学習を行い、地域への関心を高めることに努めている」【肯定的意見 96.6%】

◎学校たよりやホームページで特色ある教育活動や児童の様子を情報発信することの他、地域・保護者とも連携して危機管理の向上に努めることができた。

保護者:「学校はホームページ等を通じて、活動の様子を伝えることに努めている。」

【肯定的意見 96.2%】

【課題】

▲自分の意見や考えを伝えたり書いたりすることに積極的になれない弱さ【否定的意見 28.4%】や、テレビやゲームなどをする家庭内ルールを守り切れない弱さ【否定的意見 28.9%】が窺える。また、早寝早起きをしているの項目では昨年度より10%の肯定割合が下がっていることから、主体的な学びや生活習慣をつけていくが課題である。

▲地域、保護者との連携に力を入れ情報の発信、地域協力による学習など取り組んできたが、保護者からは一人ひとりに合ったきめ細かな指導と支援に弱さがあるとする評価【否定的意見 22.4%】は多く、引き続き家庭と連携した取組を進めていく必要がある。

地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～

亀山市立昼生小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 地域との連携を強化し、学校・家庭・地域が一体となった学校づくりを推進する。

＜地域とともに歩む学校づくり＞

(2) 学ぶ意欲の向上に努め、学習規律、学習習慣の定着及び授業改善により、学力の向上に努める。

＜確かな学力の育成＞

(3) 基本的生活習慣・社会的規範意識を育み、ともに高まろうとする仲間づくりを進めるとともに、子どもたち同士のつながりを深める。

＜豊かな心の育成＞

2 具体的な実践

(1) 地域とともに歩む学校づくり

＜米づくり・お礼の会11/29＞

5年生が中心となり、全校でもち米づくりに取り組んだ。地域の方々と共に作業に取り組む中で、米づくりの苦労や工夫、昼生地区の農業に対する思いにふれ、感謝の気持ちを深めることができた。米作りの集大成として、5年生の子どもたちが、お世話になった地域の方を招いてお礼の会を行った。

＜地域の先生人材バンク＞

令和3年度より「地域の先生(ゲストティーチャー)人材バンク」を昼生小学校運営協議会で作成しており、現在も随時追加、拡張している。

リストを手掛かりに、各学年が各教科・領域等の年間計画と照らし合わせて、地域で活動する方をゲストティーチャーに迎え、学習を進めてきた。また、令和5年度よりスタートした複式教育学習支援ボランティアの方には、3,4年算数の「わたり」授業の活動補助や採点などで支援をいただいた。



＜全校田植え＞



＜算数複式授業＞

(2) 確かな学力の育成

＜学びあい活動の充実＞

「ともに高め合う子どもの育成～異学年での交流活動を通して～」を研究主題とし、研修に取り組んできた。複式授業や合同授業での異学年集団による学習を行うことで、少しでも多様な考えに触れる機会となった。複式授業や合同授業で児童が主体的に学習を進めていけるようにするために、学習リーダーの育成も推進してきた。児童会からの「10チャレ」や図書委員会からの「10読」など、児童の自発的な活動についても推進した。

(3) 豊かな心の育成

<あいさつ標語>

あいさつは、人と人をつなげる大切なものであり、人権意識の向上を図るものとの認識から、全校であいさつ標語に取り組んだ。全ての標語をもとに「あいさつ啓発ポスター」を作成し、昼生地区まちづくり協議会をはじめ、昼生地区内の公民館などへ配布し、掲示していただいた。

<友愛活動～独居高齢者宅訪問及び歌のプレゼント～>

昼生地区まちづくり協議会福祉部で、地域の高齢者の健康対策や高齢者の居場所づくりなどについて様々な企画・運営を行っている。福祉部の方に、ゲストティーチャーとして来校いただき、「友愛訪問の意義」についてご講演いただいた。その後、昼生地区に住む一員として、福祉部や民生児童委員、PTA 地区委員の方々と一緒に独居高齢者の方々の自宅を訪問し、家庭科の時間に作製した手作りプレゼントを言葉がけしながら渡し、地区に住む高齢者との繋がりを築く活動を行った。更に、昼生小学校の児童が各地区の集会所及びコミュニティセンターへ出かけ、亀山市小中音楽会で披露した歌のプレゼントをした。この活動を通して、児童の歌を歌うことへの自信が向上し、自分たちの歌が地域の活性化に役立つことに喜びを感じることができた。



3 成果と今後の課題



<友愛訪問活動>



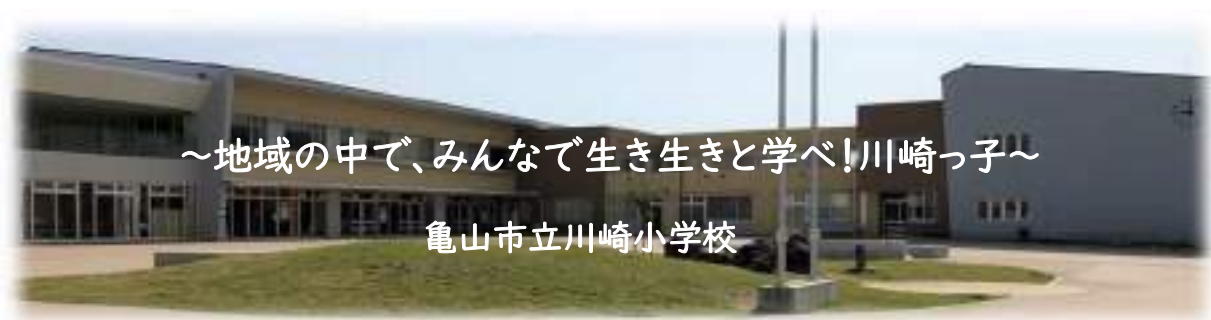
<歌のプレゼント>

(1) 成果

- ・学校と地域が連絡を密に取り合い、地域との交流学習を行ったことで、地域との連携を強化することができた。
- ・児童が地域に貢献することを通じて、「自分も昼生地区の一員である」という意識を高める機会となった。
- ・学習や図書などのボランティア活動が活発に行われた。
- ・昼生小学校の特色を見童の歌唱で打ち出すことができた。

(2) 今後の課題

- ・昼生地区の高齢化により、地域の力を借りた様々な教育活動を続けていくことが難しくなっている。
- ・ゲストティーチャーが固定化しており、今後も無理なく活動していただくためにも、「地域の先生人材バンク」への登録を広く呼びかけ、様々な分野でいろいろな人に関わってもらえるようにしていく必要がある。
- ・昼生小学校の魅力が増すよう、児童の歌唱以外に様々な特色を打ち出していく。



～地域の中で、みんなで生き生きと学べ!川崎っ子～

亀山市立川崎小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

「ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校」をつくるために、「保護者・地域との連携と協働の推進」と「豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造」を柱に、特色ある教育活動をすすめた。

2 具体的な実践

(1) 保護者・地域との連携と協働の推進

①川崎の歴史・文化・人材を最大限に活用した地域関連学習の充実

川崎小学校区は、地域の教育資源「ひと・もの・こと」が非常に豊かな校区である。これらの教育資源を活かした地域関連学習を通して、児童に地域への愛着と誇りを育てている。



1年生生活科 昔あそび体験



2年生生活科 まちたんけん



3年総合 さとも植えつけ



4年総合 かんこ踊りについて



たんぼ学級 焼き芋体験



5年家庭科・総合
地域の方へお礼の会



6年社会科・総合 峯城跡見学



教職員研修 地域教材の
フィールドワーク

②保護者・地域とともに創り上げる学校諸活動と地域行事等への参加、貢献

地域の人とのふれあいや地域での様々な体験等を通して、豊かな人間性・社会性を育てている。



川崎ふれあい文化祭のオープニングで、かんこ踊りを披露



川崎ふれあいフェスタで、地域の方と一緒に育てた野菜と家庭科で作成したコースターを販売



川崎駐在所や地域の方の協力を得て交通安全教室を実施



今年度初の企画
クリスマスコンサート
NHK 全国音楽コンクールへ
出場 三重大会出場 銀賞



地域の方を講師にフレンドリー
クラブを6回実施



③地域共有ゾーンの有効活用

本校には、ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンが設けられており、児童が地域の方々とふれあい、そして学ぶ場、また、地域の方々の活動の場として活用している。



「花壇及びフレンドリー農園整備」



「花あそび～フラワーアレンジメント～」



「亀山市吹奏楽団」

くろぼくふれあい活動



放課後子ども教室
「バルーンアート」



新1年生保護者を対象と
したいすカバー作り教室

④学校情報の積極的な発信と学校公開

学期1回の授業参観、フリー参観、児童会行事などを通して保護者や地域に広く学校や児童の様子を知ってもらうことができた。また、学校だより、学年通信に加え、学級だよりを発行し、児童の日常の様子や担任の学級経営についての思いを伝えることができた。



(2) 豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造

①川崎小学校十か条に基づいた生徒指導

十か条から毎月の児童会目標(生活目標)を設定し、各学級で取組を進めている。

②学びの基礎を充実し、誰もがわかる主体的で対話的な授業改善

基礎的・基本的な力の定着を図る取組とともに、対話をとおして学びが深まる授業づくりを目指して、児童が自分の考えを持つことができる課題設定の工夫や、「対話」チェックシートをもとに話す・聞く力における系統的な指導を進めることができた。また、指導教諭や研修主任、中堅教員の提案授業から、目指す授業の形が明確になり、共通認識をもって授業づくりに取り組むことができた。



3 成果と課題

・実施計画の作成、見直しを行うことで、地域関連学習の目的を明確にして取り組むことができた。限られた授業時数の中で、児童の主体的な学びを大切にしつつ、教科の学習で培われた力を地域学習の場でさらに高めることができるよう、よりカリキュラムマネジメントを進めていきたい。

地域とともにある学校づくり(保護者 A 評価 75.4% 地域 A 評価 60.0%) 地域への関心(児童 A 評価 64.8%)

基礎学力向上(保護者 A 評価 34.7% 肯定的評価 87.9%)

対話的授業改善「聞く」(児童 A 評価 55.5%) 「伝える」(児童 A 評価 38.5%)

・地域や保護者の学校行事等への参加、参観の機会を作ることができた。今後も、参加、参観の呼びかけ、HP や「つながる連絡」をうまく活用しながら学習活動の周知を継続するとともに、それぞれの学習の意義や目的を丁寧に伝えることで、保護者・地域と連携・協働した教育活動を進めていきたい。

情報発信(保護者 A 評価 68.8% 地域 A 評価 68.0%)

生きてはたらく力の育成

～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～

亀山市立野登小学校

1. 特色ある学校づくり推進の概要

本校では、「地域との関わりや人とのふれあいを通して、思考力・判断力を高め、伝え合う力を身につける」ことを活動のめあてとし、以下の2点を中心に取り組んだ。

- (1) 地域資源(ひと・もの・こと)を活用した「学びの意欲」づくり
 - ・野登の自然や文化、産業に触れる「ふるさと学習」
 - ・地域の文化や特色に触れ、人との交流を通して地域の良さを学ぶ
 - ・学びを発表する場の設定
- (2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり
 - ・聴くこと、話すことの活動の充実
 - ・基礎・基本の定着(読む・書く) ・1人1台端末の活用 ・授業力の向上

2. 具体的な実践

(1) 地域資源(ひと・もの・こと)を活用した「学びの意欲」づくり

本校では、学校運営協議会を軸とし、地域や保護者と連携を図りながら、野登の自然や文化を学習に積極的に取り入れ、少人数の良さを生かした教育活動を展開している。

1・2年生は、例年、地域の方の指導のもと自然素材を使って作品づくりをしている。丸太切りの体験は、この時ならではの体験である。また、1年生は縄跳びをし、2年生は穴虫の郷での自然観察やお店へのインタビューに行き、地域の方の優しさに触れたり、地域の方が見守り隊として自分たちの安全を守ってくれていることを知ったりした。3年・4年生は、安楽川の生き物調べを行い、地域の自然の中で様々な生物と共生していることを学んだ。天然記念物のネコギギについて詳しく学び、野登の自然環境を守っていくために、自分に何ができるかについて考えた。5年生は、米作り体験を通して、昔の人の米作りに関わる工夫を知るとともに、現在の農業の仕組みについても教わり、これから10年先の野登の農業について考えることができた。6年生は、17年前から継続して行っている「野登和紙づくり」に取り組んだ。この取り組みを始めた頃は、地域に出かけて和紙づくりを行っていたが、現在は学校で地域の方やPTAの力を借りて作成している。材料は地域に群生している「みつまた」を使い、より質の良い和紙を作るために毎年地域の方とともに工夫を重ね、改善を加えている。原木の調達やみつまたの皮を煮立てる作業など、子どもたちだけで難しい内容は、まちづくり協議会の方々をはじめとし、みつまたを愛する会、野登ルンビニ園、野登小PTA、PTA役員OBの方々の力を





借りて行った。みつまたが群生する「天空の森」の除草作業や、みつまたの枝から皮を剥ぎ取り、和紙に使う必要な本皮を取り出す細かい作業を、6年生の保護者と一緒に行うことを継続し、親子で関わり合いながら卒業証書となる和紙作りに取り組んでいる。

(2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり

児童の表現力・思考力の向上をめざし、校内研修による授業研究の充実を図った。児童が主体的・対話的に課題解決に向かう力を養い、先生や友だちの話を「聴く」ことや論理的に「話す」ことに重点をおいた授業を展開し、道徳科を軸として指導内容や指導方法の工夫について研究を深めた。また、複式学級における「わたり授業」を想定し、グループでの話し合い内容が充実するような仕掛けづくりや授業づくりにも、まだまだ研修の途中であるが、教員一人ひとりが意識しながら取り組みをすすめている。1人1台端末を使った授業や家庭学習は当たり前になってきており、すでに端末のない授業は考えられないところまできている。

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・それぞれの学年で野登の地域資源を活用した学習を行い、子どもたちは地域の産業や文化について新たな発見をするとともに、地域の方とのつながりを深めたり、自分自身を見つめたりすることができた。
- ・みつまた和紙づくりでは、子どもたちが、みつまたや自身で制作した和紙に対する愛着や和紙づくりに関わっていただいた方への感謝の気持ちをもって取り組めるよう、活動計画を見直ししながら内容を検討し、進めることができた。
- ・[＜地域・保護者アンケート＞](#)「学校は、学校行事などを通して、保護者や地域住民と連携した教育活動に取り組んでいる」（肯定的回答 地域：100% 保護者：90.3%）
- ・複式学級でない学級の教員もともに「わたりの授業」について考え、それにつながる授業づくりを考えることができた。

(2) 課題

- ・学校からの情報発信を継続するとともに、子どもたちにつけたい資質・能力を保護者や地域の方と共有し、連携・協働しながら取り組みを進めていく必要がある。
- ・コロナ禍以前に行っていた地域とのつながりのある行事等を、継続可能な範囲で取り戻し、地域との連携をさらに強めていきたい。
- ・みつまた和紙づくりでは、学校・保護者・地域がそれぞれの立場でどのように関わるができるかを考え、再構築している。継続可能な形を探し、よりよく協働して取り組むことで、6年生の学びの場とともに、地域に開かれた学校づくり、地域貢献や地域の活性化へつながる継続した取り組みとしていく。

であい、ふれあい、そして 未来へ ～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～

亀山市立白川小学校

I 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 本校の現状

① 地域と共に歩む白川小学校 ～白川小学校独自の「体験学習」づくり～

白川小学校は、「白川小学校学校運営協議会」、「白川地区まちづくり協議会」の2つの協議会と一体となって、様々な学校行事を展開している。地域にとって白川小学校の子どもは宝であり、高齢化が進む中、いかに「ふるさとを大事にする子どもを育てる」かが課題となっている。学校行事や総合学習におけるカリキュラム等について、前年度から、地域でお世話になる担当者の方と日程や内容などの協議を行っている。白川小学校と地域の方々と積み重ねてきた様々な体験活動は、今後も大事にしていく必要がある。

② 複式における学習や異学年との合同授業の工夫

本年度は1年生と2年生は単式学級、3・4年生と5・6年生は複式学級である。音楽、図工、書写、体育、せいかつ、総合の授業は、1・2年生、3・4年生、5・6年生の合同で行っている。授業研究は「算数科」に特化して、複式学級での学習を見据えた児童主体の授業スタイルの確立を目指してきた。昨年度からの同じ研究テーマ引き継いだこともあり、児童は、単式・複式に関わらず、どの学年でも学習リーダーを中心とした学習に取り組み、学習ガイドに沿った授業を進めることができるようになってきた。これらを他の教科に広げていくことについては、それぞれの教科における特性もあるため、今後の検討課題である。

(2) 取組の柱を中心とした概要～体験活動と交流活動

① 白川の良さを知り、白川の伝統を引き継ぐ体験活動

- 1・2年生・・・「さつまいも」の栽培について
- 3・4年生・・・「そば」の栽培について
- 5・6年生・・・「しらかわの伝統、炭焼き事業」について

② 人との出会いを通して、互いにふれあうことから学ぶ ～交流福祉活動～

○高学年を中心とした全校行事（生活介護事業所「つくしの家」の方々と交流）

（1回目）5・6年生で、「つくしの家」を訪問し、通所者の方々と交流したり作業体験をしたりする。

（2回目）全校で、「つくしの家」を訪問し、通所者の方々と双方が考案したゲームを通して、交流活動を行う。

（3回目）学校行事である「ふれあい集会」につくしの家の方々を招待し、演奏を披露したり、しおり作りをしたりして楽しむ。

○中学年による福祉支援活動（お年寄り訪問）

・地域のお年寄り宅へ出向き、育てた花の苗を、手紙を添えてプレゼントする。（年2回）

2 具体的な実践例

(1) 地域の方々から学ぶ

○地域の方を講師に招いて

「田植え」と「稲刈り」は全校児童が取り組む体験活動である。今年度も地域の方の田んぼをお借りし5月の苗植えから始まり、9月には無事稲刈りをすることができた。白川小学校では、毎年、収穫したこの「もち米」を使って、1月に「もちつき集会」を行っている。今年度も保護者の方々の協力を得ながら、「もちつき」を体験し、体験学習でお世話になった地域の方々にふるまいお礼を伝えることができた。



この他にも、1・2年生においては「いもの栽培」を、3・4年生においては「そばの栽培」について地域の方に講師としてお世話になり、学習を深めている。1・2年生は収穫した「いも」で、地域の方々と「焼き芋」を楽しんだ。3・4年生は収穫した「そば」を使い、今年度は「そばがきづくり」にチャレンジしていた。どの活動も、体験するからこそ得られる学びとなっている。

○白川の伝統「炭焼き事業」を継承する取組み

白川小学校には、学校の敷地内に手作りの「炭窯」がある。炭焼きでお世話になる講師の方々に切り出して頂いた樫の木等を、今年度も5・6年生が、「炭焼き事業体験」として、炭窯へ運び、またその炭を取り出す作業を体験した。昨年度から「白川の炭」がふるさと納税の返礼品となったこともあり、作った炭を販売するための「箱詰め作業」の量が非常に多く、授業の枠内で作業することが少し大変なところもあった。児童は、ひとつひとつ丁寧に炭をパッキングして、炭の搬入から販売までの一連の流れを「起業体験」として学ぶことができていた。



(2) 福祉活動につながる交流体験

白川小学校では長年にわたって生活介護事業所「つくしの家」の方々と交流が続いている。毎年恒例の「つくしの家」の方々との交流は、今年度も3回行うことができた。3回目の交流では、児童と通所者の方々との「ペア活動」もスムーズに進み、お互いが楽しく交流する様子が見られた。縦割り班での5・6年生による各ゲーム司会や進行も回を重ねるごとに上手くなっており、低学年児童や通所者の方々にわかりやすく「しおり作り」についても説明していた。

3 成果と課題

様々な「人・もの・こと」との出会い、ふるさとへの愛着心をもつ児童の育成など、白川小学校で歴代培われてきた大切な学習は、今年度も下の学年へと引き継ぐことができた。しかし、将来的に懸念される「地域ボランティアの担い手不足」を考えると、行事そのものや、内容の精選を図る必要が出てきている。

つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子 亀山市立神辺小学校



1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 総合的な学習の教材を地域にもとめ、地域の中に見出した学習課題を解決する活動を行う。その際、地域の特色に関するゲストティチャーを招聘したり、地域に調査に出かけたりし、体験的で創造的な活動を積極的に展開する。また、地域の方々と交流や親睦を深めながら、地域に開かれた教育実践を行う。
- (2) 人権意識の向上を研修テーマとし、体験的な学習を取り入れた実感のある授業づくりに取り組む。先進的な実践に学ぶとともに、子どもたちの実態に応じた授業を構築する。
- (3) チーム・ティーチング、算数科の指導形態を機動的に工夫し、個に応じた指導を充実させる。主体的、対話的で深い学びになるよう、ペア学習やグループ学習・全体での話し合い活動を大切に学習を行う。

2 具体的な実践例

(1) 地域人材・教材を活用した体験的な学習

神辺小学校にある地域教材・地域人材を積極的に生かし、体験的な学習を実施した。

低学年では、生活科で町たんけんやさつまいも植えなど、地域の町なみや自然、施設、歴史等を学ぶことができた。また、総合的な学習や栽培活動（委員会活動等）、文化祭等においても、地域の方々と共に活動を行い、これらの活動を通して、地域の人々や環境を大切にする心情が育まれてきた。また、学習ボランティアとして、多くの地域の方々に国語科や算数科、家庭科、図画工作科等の学習で支援していただき、児童の学習意欲の向上、基礎学力の定着を図ることができた。



〈1年生 さつまいも植え〉



〈3年生 茶摘み〉



〈文化祭〉

(2) 人権をテーマにした実感のある授業づくり

本校の人権教育カリキュラムをより系統的に推進できるよう、年度初めに「重点をおく取り組み」の見直しを行った。また、人権学習を校内研修の中心として位置づけ、「人権意識を育む人間関係づくり」、「人権意識を育む学習づくり」を柱に研修を進めてきた。人権学習は、自らを見つめなおし、差別をなくす実践につなげるための学習であることを全教職員で共通理解し、人との出会いや体験的な学習を積極

《重点をおく取り組み》

1・2年 自分を見つめる

3年 多文化共生

4年 障がい者理解

5年 個別の人権問題

(子どもの人権・ハンセン病的マイノリティ)

6年 部落問題

的に取り入れてきた。各学級で行った自分宣言や縦割り班での全校人権集会では、これまでの人権学習をふり返るとともに、自分自身を見つめなおしながら話す子どもの姿があった。全校人権集会では、たてわり班で集まり子どもたち一人一人が自分宣言を行った。



〈4年生 出会い学習〉



〈5年生 ヒューマンフェスタへの参加〉



〈全校人権集会〉

(3) 個に応じた効果的な少人数指導

算数科の授業では、個別支援が必要な学年に重点的に複数教員による指導を実践することによって、多角的・多面的に児童理解を行うことができ、個に応じた多様な指導・学習形態をとることができた。また、目的に応じてペア・グループ・全体で話し合ったり、タブレットを活用して考えを共有したりと、対話の中で考えが深められるよう指導・支援を行うことができた。

3 成果と課題

(1) 成果

①地域教材の学習など通して、地域住民と児童との交流が深まった。また、地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動により、児童の視野が広がっている。

・「学校は地域の人材を取り入れようとしている」

地域・学校関係者アンケートで肯定的な回答、地域91% 保護者89%

②人権教育年間計画に則り、持続的に人権学習を実践した。

・年間計画の確実な実施。定期的なやなぎっ子タイムの実施（全学年週1回）。

③少人数指導によって、子どもたちの算数科に関して理解が深まっている。

・「学校の授業はわかる」 肯定的な回答 94%

(2) 今後の課題

- ・地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動は、社会とつながり、自ら学び、自ら考える生きる力の育成につながる。今後も地域と連携しながら、積極的に取組をすすめていきたい。
- ・昨年度の実践を受けて、人権教育における「重点におく取り組み」を見直し取組んできた。今後も系統的・計画的に人権教育を推進し、各学年が各教科と関連性を持たせ、差別をなくす主体者となる知識と態度を養っていきたい。
- ・少人数指導・個別指導がより効果的に行えるよう、次年度においても児童へのきめ細かな支援を継続して行っていきたい。

笑顔いっぱい!進んでチャレンジする井田川っ子の育成

亀山市立井田川小学校

I 特色ある学校づくり推進の概要

①学力向上に関する取組

- ・主体的で対話的で深い学びの実現を図るための、新たな教材教具開発や工夫。
- ・ボランティアによる「読み聞かせ」や「外国語活動」等の充実により、言語能力・読解力の向上、学習意欲の向上等を図る。

②地域体験学習に関する取組

- ・地域の歴史や伝統に触れる機会を提供や、地域の専門家との交流プログラムにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。
- ・地域の農業や文化を現場での体験を通じて学ぶ。

③地域交流活動に関する取組

- ・地域の方をゲストティチャーとして招き、「防災学習」、「バリアフリーについて」学習し、総合的な学習の時間の充実を図る。
- ・地域の方と児童会委員会の協力による、花壇づくりの充実。

④学びの環境づくりに関する取組

- ・インクルーシブな学習環境の推進。
- ・児童が、主体的に校内清掃等の環境整備に関わることで規範意識や社会性などの豊かな人間性の育成を目指す。

2 具体的な実践例

- ・3年生の総合的な学習の中で、ユニバーサルデザインについて、「UD夢ネット亀山」の方に来ていただいて、お話を聞いて質問をしたり、一緒に教室移動や給食を食べたりすることを通して交流を深めた。児童は日常生活や井田川小学校内にどのようなバリアがあるのかや、障がい者へのかかわり方などについて実践的に学ぶことができた。
- ・4年生の総合的な学習の中で、地域の方々に来ていただいて、さまざまな仕事について学ぶ中で、自らの将来について考えることができた。また、地域の伝統行事についてもゲストティーチャーを通じた学びを深めることができた。



3年生 UD夢ネット亀山の方と交流



4年生 キャリア学習

- ・5年生の総合的な学習において、毎年協力をお願いしている地元のボランティア団体「どんこネット川合」にご協力いただき「米作り」を実施し、田植えや稲刈りも体験することができた。
- ・「井田っ子応援団」での「英語」「読み聞かせ」「登下校見守り」の活動はコロナ禍前のように活動することができた。
- ・「なるほどタイム」として教員が学習補充をしたり、地域の先生による学習支援講座を実施したりし、個別指導による学習の定着や意欲向上に取り組んだ。



5年生 田植え体験
どんこネット川合による指導

3 成果と課題

(1)成果

- ・今年も、運動会やオープンデーにおいて、協議会委員が学校の様子を参観し、具体的な児童の姿をもとに意見交流を深めることができた。
- ・地域の人材の情報を活用することで、総合的な学習の時間で、地域体験活動を設定しやすくなり活動が増えた。放課後子ども教室や井田っ子応援団（学校ボランティア）などと連携し、内容が充実した。また、今年度も新しい方が読み聞かせボランティアに加わった。
- ・学力定着のための補習や意欲や追求、見通しを持った授業づくりにより、意欲向上につながった。「学習内容がわかる」（令和6年度肯定的評価 90%）「学校生活が楽しい」（令和6年度肯定的評価 88%）
- ・地域とつながり体験的な学習をできるだけ取り入れることにより、学習意欲が高まり、学びが広がり深まった。
- 「地域の人に学校に来てもらって行う学習は楽しくためになる」（令和6年度肯定的評価 94%）

(2)課題

- ・将来の学校・地域像を熟議し、地域とともに目指すビジョンの共有。
- ・井田っ子応援団（学校ボランティア）の拡充と生活科・総合的な学習を軸としたカリキュラムへの有効なコーディネート。
- ・井田川小校区の地域学習人材バンクを設置し、要請に応じて活動する仕組みをつくり、「井田っ子応援団」への参加を目指す。
- ・子ども、家庭支援ネットワークの充実と人権啓発の推進により、多様性を尊重し、共生の視点での学校・地域づくりに取り組む。
- ・井田川小を核とした地域課題の改善と学校教育活動の充実をともに進めることができる取組を模索し、推進する。
- ・教職員の働き方改革につなげる視点での環境整備、行事や活動の精選を進める。

みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成

亀山市立亀山南小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 学校行事等の学校運営に地域の教育資源を積極的に活用し、地域に根ざした教育活動を行う。
- (2) 子どもの可能性を高める体験活動を通して自他を思いやる心や主体的・自立的な態度を育てる。
- (3) 芝生運動場、学校花壇の整備充実を図り、その中で取り組む勤労生産活動や体力向上活動から、豊かな心と健やかな体の育成を図る。
- (4) 家庭での学習や生活習慣、人間関係などについて質問紙調査等から現状把握、分析を行い、その改善に向けた取り組みを推進する。

2 具体的な実践

(1) 地域の教育資源の活用と地域に根ざした教育活動

「地域ふれあい集会」は、地域主体の行事であり、学校運営協議会運営委員を中心に行っている。地域の方を講師としてお招きしてふれあい活動を行ったり、図書ボランティアの「おはなし隊」による読み聞かせを聞いたり、地域の方と楽しみながら交流することができた。また、集会の企画・運営や保護者や地域の方に広く参観いただくことで、学校・保護者・地域の連携を深めることができた。

また、6年生の里山学習、5年生の保育園交流、2年生の町たんけん等、地域の教育資源を活用した地域関連学習を進め、子どもたちに地域への愛着や社会性、思いやりの心を育ててきた。

《地域ふれあい集会》



ふれあい活動【竹とんぼ】



「おはなし隊」による読み聞かせ

《地域関連学習》



6年生 里山学習



5年生 保育園交流



2年生 町たんけん

(2)子どもの可能性を高める体験活動・自他を思いやる心

活動テーマにある「みどり」は、本校の大きな特色である芝生運動場と花壇である。芝生の維持管理は課題となるが、年間を通じて子どものケガは少なく、のびのびと活動でき、健やかな体づくりに繋がっている。

また、校内花壇や学級園活動では、地域のボランティアの皆さんの協力を得ながら行った。自然に親しく関わり、自分たちが大切に育てた植物が実を結んだり、花を咲かせたりする様子を直接的に感じ取る活動を通して、子どもたちの豊かな心の育成を図ることができた。

集会等の全校行事では、縦割り班活動を多く取り入れ、高学年が中心となって計画・運営し、主体的・自立的な態度を養ってきた。なかよし集会では、班長が中心となり、なかよし班遊びやなかよし班スタンプラリーを行い、班員との交流を図った。なかよし班そうじでは、高学年が低学年に声をかけながら協力して活動する姿が見られた。人権集会では、「みんなが気持ちよく生活できるような言葉づかい」について、なかよし班で考えた。高学年がリーダーとなって自分の考えを発表し、話し合った意見をまとめた。各班で自分自身の「言葉」を見つめなおし、今後の行動について話し合いながら考えることができた。このような異学年で関わる活動を通して、自他を思う気持ちを育むことができた。



4年生 花壇づくり



縦割り班活動
「なかよし班遊び」



人権集会

3 成果と課題

【成果】

- ・地域ふれあい集会、「おはなし隊」による読み聞かせ、里山での自然保全活動、町たんけん等地域の教育資源を活かした活動を通して、地域の方々との交流を深め、地域に対する愛着を育むことができた。
(保護者:体験学習等の中で、いろいろな人と関わり、生きる力をつけつつある。【肯定的意見 98.4%】)
(地域:地域と連携して教育活動を進めようとしている。【肯定的意見 100%】)
(児童:生活科や総合的な学習やなかよし集会などで、いろいろな人と関わったり、いろいろな経験をしたりするのが楽しい。【肯定的意見 94%】)
- ・なかよし集会や人権集会等の活動を通して、自分を見つめ直し、相手のことを考え行動することや思いやることの大切さに気づくことができた。
(児童:友だちを大切に思い、仲良くしている。【肯定的意見 97%】)

【課題】

- ・今後も学校から情報発信をするとともに、保護者や地域の方と連携・協働しながら取組を進めていく必要がある。
- ・子どもたちの主体的・自立的な活動をさらに広げられるような活動の推進していく。
- ・芝生運動場が最大限に活かせるような環境整備と運動場の管理体制を検討していく。

じぶんで なかまと ふるさとから 学ぶ 夢豊かに しあわせに
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、なかまと共に、

自ら取り組む子の育成～

亀山市立関小学校

Ⅰ 特色ある学校づくり推進の概要

「地域の教育資源を生かした学習活動の推進」

＊関宿から学ぶ「ふるさと学習」

＊認・小・中が綿密に連携した活動

「『ととのえる』活動を軸にした生活力の向上」

＊～あいさつ・整理整頓・言葉遣い～

「中学校区の協働による人権教育の推進」

＊権利の主体者としての意識の育成

＊協働的な学習活動の創出

＊教職員研修等の活性化及び指導力向上

2 具体的な実践例「地域の教育資源を生かした学習活動の推進」より

子どもたちが、自分の思いを自分のことばで表現し、人と人とのつながりを大切にしながら意欲的に学びあい、高まりあえる授業づくり、豊かな人間性の創造を目指し、歴史と伝統に裏付けされたふるさと関（せき）”の特長を生かし、保護者や地域に開かれた信頼される学校づくりに努めた。

学年カルタ大会



重伝建ワークショップ



ワークショップブース



ワークショップブース



ワークショップブース



シンポジウム



本年度は、関宿重伝建選定40周年という節目の1年であり、NPO 法人亀山文化資産研究会、東海道関宿まちなみ保存会、亀山市市民文化部文化課まちなみ文化財グループのお力を借りながら、4年生の総合的な学びの機会として、子どもワークショップ「残していきたい関宿」に取り組んだ。6月10日には、重伝建の方々と児童の顔合わせに始まり、児童が関宿についてどれくらい知識があるのか交流しあい、これからどのようなことを学びたいか意見を出し合い仲間とまとめあった。7月2日には、関宿の伝統と歴史を守るさ

まざまな技術者（職人さん）にお越しいただいた。児童は各ブースの職人さんのもとに集まり、準備してきた疑問質問を伝え、職人さんからは、丁寧にわかりやすく、関宿の歴史と伝統の維持、継続におけた興味深いお話をたくさん聞かせていただいた。9月17日には、重伝建の方々にお越しいただき、児童がまとめあげたこれまでの学習の成果を発表した。夏休み直前には、重伝建選定40周年記念として、まちなみ保存会の主催による「第1回関宿かるた子ども大会」が開催されることになった。この案内をうけ、3、4年生は『関宿かるた』に慣れ親しみ、地域の歴史と伝統を楽しく知る機会ができた。7月16日の本大会にエントリーした23名の4年児童は、放課後、関の山車会館に集い、これまでの練習の成果を十分に発揮して優秀な成績を収めた。

11月2日には、亀山市主催による重伝建40周年記念シンポジウムが行われ、関小から4年生12名がエントリーし当日の関小の発表に多くの関係者から好評いただいた。

また、本年度も「関宿」を起点に、ふるさと“関（せき）”の特長を生かした学びを展開した。関の山車会館、伝統的菓子屋、観光物産店、飲食店、官公庁等の事業所を訪問し、関の新発見・再発見とふるさとへの誇りを獲得することができた。`もの“との出会ただけではなく、何よりもそれぞれの事業所で情熱を傾ける`ひと“と出会い・触れ合えたことがふるさとで成長する児童にとって貴重な財産になった。

認・小・中の連携による活動は、特に認定こども園アスレとの関連行事は、1年生と年長児の交流を中心に、年間を通じてたくさん行うことができた。入学ギャップを解消し、不安を取り除き小学校の新生活を行ってもらうために、現1年生が上級生として年長児に直接関わり、仲間関係を形成できたことは大きい。また、現場の教職員間が施設間を行き来して、お互いの顔がみえる・わかる状態になっていることも大きい。

地域の方々の校内活動の支援・サポートも忘れてはならない。読み聞かせ・書籍管理、授業補助、交通安全・見守り活動など、児童の学校生活のベースとなる活動を継続して進めていただいている。今年も「いきいきキッズ応援団 SEKI」の方々のお力を借りて、5年生は「米づくり体験」をおこなった。モミまきから食するまで過程を、学習田で直接体験し、作物づくりの大変さとその成長を確かめることができた。また、収穫した稲をお米にして食することで、感謝のこころ、生命の尊さ、仲間と協働することの喜びや楽しさを肌身で感じることができた。このようなさまざまな出会いをこれからもつなげ、続けていきたい。

アスレのお祭りで



田植え



稲刈り



3 学校アンケートの結果より

「地域（の方）から学ぶ」について、肯定的評価割合は「保護者 95%（R5）→99%（R6）、児童 91%（R5）→95%（R6）」でさらに高い割合になっている。

「加太を大切に思う子の育成」

～子どもたちが生き生きと活動するために～

亀山市立加太小学校

1 特色ある学校づくり推進事業の概要

～小規模学校という特性や加太地区の特性を生かした3つの重点項目～

- (1) 地域のよさに気づき、地域を大切に思う心(郷土愛)の育成
- (2) 地域活力との協働
- (3) 生活習慣・学力の定着及び向上

2 具体的な実践(【】はアンケート結果、☆は目標達成)

(1) 地域のよさに気づき、地域を大切に思う心(郷土愛)の育成

①ふるさと学習の推進

○地域教材(ひと・もの・こと)の開発

「大和街道」「地域じまんの安心食材」「地域史跡学習」や「加太小の昔の様子調べ」「かんこ踊り」「町探検」など(低中高学年で年間2教材実施☆)

○児童集会・授業参観での学習内容発信

児童による「ふるさと学習」発表。

【ふるさと学習:肯定的回答 児童 100%☆,保護者 82%☆,地域 100%☆】



《自然薯づくり》

(2) 地域活力との協働

①地域体験生産活動と食育活動の推進

○1・2年さつまいも作り⇒「鬼まんじゅうづくり」、3・4年梅栽培⇒「梅ぼしづくり」、6年自然薯作り、「うどん作り」、全校もち米作り⇒「全校もちつき大会」

【地域体験生産学習:肯定的回答児童 100%☆,保護者 73%,地域 100%☆】



《梅収穫体験》



《田植え体験》



《稲刈り体験》

○お世話になった地域の方々へお礼の会を行う。

日常の学習(ふるさと学習)の成果を全校児童や保護者、地域の方の前で発表することにより、自己表現力、学級の集団性を高めた。

また、学習や見守り活動など日頃お世話になった地域の方を招待する会を開いたり、お家を訪問したりして感謝の気持ちを伝えた。



《感謝を伝える児童》

12月には、お世話になった方々を招待し、収穫の喜びと収穫までの指導に対し、感謝の気持ちを伝える全校もちつき体験を開催した。

②地域への情報発信

○学校だよりや行事案内回覧、つむぎ通信全戸配布（校長室より）、ホームページの随時更新による発信等。【学校は、家庭との連絡を密にしている：肯定的評価 保護者100%】

③学習ボランティアの活用

○地域教材（米、梅、自然薯、さつまいも他、花いっぱい活動など。）【年間のべ30名☆】



《もちつき体験》



《花いっぱい活動》

(3) 生活習慣・学力の定着及び向上

①効果的な複式指導の在り方及び授業改善について

○自ら伝え、自らかかわる加太子の育成～豊かな対話をめざして～

各担任がそれぞれ1回ずつ計5回、研究授業を行い、校区内の先生を招き、研究協議を行い、授業力向上を図った。また、学期に1度、互見授業も行った。

【授業がわかる：肯定的回答 児童90%、保護者95%】

②生活習慣の向上・家庭読書の啓発

○朝の読書タイムの設定。年間目標読書量を設定した意欲付けの取組。

【本を進んで読もうとしている：児童肯定的回答83%】

○学校医・養護などによる正しいメディアの使い方学習及びメディアコントロール週間チェックシートの活用3回、保健だよりでの結果の報告及び啓発。

③たてわり班活動の充実と仲間づくりについて

○学級レポートの交流と外遊びの推奨

【学校は楽しい：肯定的回答児童93%、保護者96%】



《メディアコントロールに関する授業》

3 成果と今後の課題

<成果>

- ・ 少人数の良さを生かし、ふるさと学習や生産活動を通じて、保護者・地域住民の協力を得ながら、充実した特色ある教育活動を行うことができた。
- ・ 地域の歴史や文化を学ぶ中で新たな発見ができ、地域への関心が高まった。また、学びを通して地域の方とのつながりが強まった。【ふるさと学習は有意義：肯定的回答 児童100%☆、保護者82%☆、地域100%☆】

<課題>

- ・ 「社会に開かれた教育課程」を実現するために、教科等横断的な視点で、計画の見直しを加え、児童の主体的な学びと協働的な学びをさらに促進する。そのためにも、児童にどんな力を育むとよいか目標を学校・保護者・地域で共有し、それぞれの視点で取り組みを進める。



地域を支え時代を担うたくましい人づくり ～地域とともに生徒が育つ学校をめざして～

亀山市立亀山中学校



Ⅰ 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 生徒会の自治活動の活性化として、学年や学校行事の企画・運営、姉妹校との交流、あいさつ運動等の委員会活動の充実に取り組む。
- (2) 学校の課題やめざす生徒像を地域や保護者と共有し、地域とつながり続ける体制づくりを推進する。
- (3) 「主体的・協働的な生徒の育成～学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり～」を研究主題とし、「学び合いの活用」と「発問の工夫」、学習習慣の育成、家庭学習の定着、朝読書や図書館の利用など、確かな学力の向上に努める。
- (4) 人権、平和、福祉、いのち(性・安全)に関する学習を行い、仲間を大切にする思いやりにあふれた心の育成に努める。
- (5) 地域行事への参加、環境美化活動、福祉施設との体験交流、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域と学校の連携を図る。

2 具体的な実践

(1) 生徒会の自治活動の活性化

「シン・亀ンライダー～全進全礼～」を今年度の生徒会目標に掲げ、生徒が主体となった活動に取り組んだ。

生徒会では、あいさつ運動やピンクシャツ運動・学校周辺のごみ拾い活動に取り組んだ。また、体育祭・文化祭では、生徒が中心となり、各学級がまともされるように取り組んだ。



①姉妹校交流

平成10年より岡山県高梁市立高梁中学校と姉妹校交流を8月に行っており、お互いの生徒会活動や行事の紹介、訪問市街地散策とその交流会を行い、両校の結びつきを深めているが、本年度については、交流のない年度だったので、来年度に向けての計画を立て準備を進めた。



②亀山中ピンクシャツ運動

生活委員会を中心に「ピンクシャツ運動」を行った。各学年で「いじめをなくすために、自分ができること」を一人ひとりが考え、クラスごとに掲示した。

(2) 学校運営協議会による取り組みと、保護者・地域への情報発信

学校運営協議会の方々に生徒たちの学習や行事を観ていただいたり、生徒会役員との意見交換を行ったりしたことにより、生徒の実態をもとに学校運営協議会として取り組むべきことについて議論を深められた。本年度は、不登校気味生徒への支援につながるようにふれあい教室や校内不登校支援センターの担当者から生徒の様子や現在の支援についての話をしてもらい意見交流をすることができた。また、不登校や別室登校の生徒を対象にした和菓子作り体験を計画し 1 月に実施した。生徒たちは一緒に和菓子作りをすることで、日本文化の魅力を体験し、仲間と一緒に活動する楽しさを味わうことができた。



災害時の学校の対応や地域との連携について意見交流をすることができた。

学生ボランティアを活用し、学校生活において生徒の支援を行った。

学校だより・学年だより・学校ホームページ等で保護者・地域への発信もタイムリーに行い、委員からも保護者からも高評価であった。

(3) キャリア教育の取組

3年生の保育体験では、校区の幼保育園へ手製のおもちゃを持って訪問し、幼児との交流・保育体験を行った。2年生の職場体験学習では、実際の仕事を間近に見て体験することにより、働くことの意義や喜びを感じ、進路や将来について考えることができた。1年生は、職場体験学習に向けて4つの講座から自分の興味のある内容を選び学習をすることで、職業観を高めることができた。

(4) 豊かな心の育成と絆づくり

本年度は、学年ごとに日頃の人権学習の話題から学年人権フォーラムを行なった。その後の全校集会で各学年から人権学習や学年人権フォーラムの様子を報告することで、生徒や教職員の人権意識を高める取り組みにすることができた。

亀山中学校「いのちの日」の取り組みの一つとして、1/20には三重県国際交流財団MIEFの上原ジャンカルロさんから、「外国人住民の人権～誰もが住みやすい社会をめざして～」というテーマのお話を聴き、みんなの人権を大切にしていけることが、自分や周りの人のいのちを大切にしていけることにつながることに気付くことができた。

3 成果と課題

本年度は、不登校気味生徒への支援や、震災時の学校や地域の対応について確認や協議をすることができた。この数年間で学校行事について見直し、生徒が主体に活動できるような活動の在り方を模索しつつ、不登校気味の生徒や特別な支援を必要とする生徒も参加しやすくなるように実施できたことが成果である。今後も、積極的に発信しながら、主体的に行動できる生徒を育成する必要がある。そのためにも、学校運営協議会で学校の課題と地域の課題を交流しながら課題解決に向けて協議したことを保護者や地域への発信し、さらに連携を強化していく必要がある。

「学校・保護者・地域が一体となった人づくり ～心豊かにたくましく 居心地のよい学校を目指して～」

亀山市立中部中学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

“人は環境の中で育ち、経験を通して生きていく”ことを基本に、「豊かな心を育む人づくり」を活動のテーマとして取り組みを展開している。本年度は学校ボランティアの募集を継続、学校・家庭・地域が連携・協力して、教育力の向上を図っている。

取り組みの視点

- ①「確かな学力」の向上と定着のため、主体的で対話的に学び合う授業づくり
- ②互いに認め合う人権感覚豊かな生徒を育てる教育実践
- ③キャリア教育の充実による一人一人の自己実現
- ④生徒の主体的な活動を大切にした取組
- ⑤生徒・保護者・地域の人々の期待に応える学校づくり、学校環境づくり

2 具体的な実践例（◎=成果指標達成）

視点①について

学習ボランティアの増員

生徒一人ひとりの学力保障に取り組むため、本年は新たに学習ボランティアを募集した。教育実習生を含む、大学生4名が生徒支援や業務のサポートを行った。

会議の同日開催

教職員の業務精選を進め、生徒対応の時間を増やすため、会議の同日開催・回数の見直しを図った。会議の間隔が空くことの課題はあるが、開催時間の変更に伴い、より多くの方に昼間の校内見学や、生徒との意見交換をしてもらうことができた。

【「授業は理解できているか」肯定的意見… 生徒 82.6%◎・保護者 68.6%】

視点③について

職場体験の実施

地域におけるキャリア教育の柱として、2年生が市内91カ所の事業所に職場体験に伺った。暑い中、3日間熱心に取り組めたようで、アンケートは概ね好評だった。

地域行事への参加

本年も中学生が地域に貢献する貴重な機会として、様々な地域行事にサポート要員として参加することができた。生徒からは、「普段の遊びはスマホ中心なので、地域行事があるとみんなで参加できてうれしい」という声があった。

6月 野登小学校運動会

7月 井田川北まち協子ども祭り

10月 みずきが丘秋祭り

10月 みどり町文化祭

11月 川崎ふれあいフェスタ

みつまた花壇の整備・引渡し

令和3年に植樹したみつまたの枝を、野登小学校の卒業証書となる「和紙づくり」の原料の一部とする取組が、引渡しの年を迎えた。いま通う生徒にも関心を持ってもらうべく、2か所あるみつまた花壇用に美術部が看板を作成、7月からは週1回、野登小出身の生徒が学年別に花壇の草取りを行った。引渡し当日は、植樹時を知る方々にもお立会いただき、3年越しのプロジェクトが無事に完了した。

【「積極的に地域の行事に参加」肯定的意見… 生徒(1.2年) 70%◎・保護者 54.9%】



視点④について

中庭整備の継続

学校運営協議会の立ち上げ当初から、生徒の憩いの場となるよう、本校中庭の美化活動を継続している。本年は7月に美化委員がマリーゴールドを植え、11月に3年生がビオラとチューリップを植えた。また、人権サークル「スマイルクローバー」の生徒が花を植えたプランターを、校区のまちづくり協議会など5カ所に届ける活動を春と秋の2回行った。生徒の発案により、プランターに挿したメッセージカードも好評だった。

環境ボランティアの発展

令和4年度より、環境ボランティアの方々に活発な活動を継続いただいている。本年は、正門付近の木々や、木工室横の竹林に加え、裏門付近の広大な竹林を伐採・粉碎してもらったことで、安全に駐車場として使えるようになった。また、11月に行うPTA愛校作業の日に、草刈り機をご持参いただくボランティアを新たに募り、作業にご協力いただいた。

【「校内美化に取り組んでいる」肯定的意見… 生徒 86.8%◎・保護者 86.9%◎】

3 成果と今後の課題

【成果】

・視点②「仲間づくりの学習」生徒 93.1%◎・保護者 86.7%◎、視点⑤「学校の様子を知らせている」生徒 88.4%◎・保護者 79.7% を含む、すべての視点で生徒評価は目標を達成した。職場体験や地域行事において、教職員以外の大人と関わり、認められる経験の有意義さを強く感じた。また、「業務時間の縮減は進んだか」に対する教職員の肯定的意見は、去年の 32.3%から 57.1%まで改善された。

【課題】

・「家庭で毎日勉強しているか」の項目は、生徒 51.5%・保護者 46%・教職員 31%と三者とも極めて低く、保護者からも学力を懸念する声が多かった。家庭での習慣づけが進むよう、積極的な取組や声掛けを工夫したい。

幸せ関中学校計画 ～子どもたちの夢を叶えるために～

亀山市立関中学校

Ⅰ 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 地域との交流の強化

生徒が地域に出て行き、ふれあいの場を作る。それをもとに、地域の方々が気軽に来校できる雰囲気を作る。

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

保護者は勿論、周りの大人がアンテナを張り巡らせ、諸機関と連携しながらより良い学校運営に当たる。

(3) 教育から導育への提案

教えて育てる子どもが受け身の「教育」から、「これをやってみたい、あれをやってみたい」という気持ちに子どもの心を導き育てる「導育」を展開する。

2 具体的な実践例

(1) 地域との交流の強化

- ①関中人権フォーラムでは、「差別をなくすために自分たちができる行動」について全校生徒が意見交換を行った。校区人権フォーラムでは、校区内の小学6年生が集まり、「あっていい違い？あってはいけない違い？」について考える機会をもった。三中学校交流会では各校の代表者が集まり本校を会場とし、身の周りにある人権について話した。



校区人権フォーラム

②学びの基盤づくりとしての出会い学習の実施

[1年生]・・・人権学習との出会い(奈良県水平社博物館、西光寺)

[2年生]・・・職場体験学習(市内の各事業所でのキャリア教育)

[3年生]・・・修学旅行(沖縄の自然と文化を学ぶ体験学習)



1年生 水平社博物館



2年生 職場体験学習



3年生 修学旅行

- ③関認定こども園アスレの園児たちが本校体育館に来館し、3年生が家庭科の保育実習として園児たちと交流した。
- ④避難所開設訓練を行った。実体験を通して地域連携・強化することができ、防災意識の向上を図ることもできた。
- ⑤登下校時の福祉バスの不便から地域の安全面を協議し、新たな地域の自転車通学許可を承認した。



避難所開設訓練

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

- ① キャリア教育への支援として２年生の職場体験学習を行った。
生徒は、様々な職業の働く人に密着して、実際の仕事を間近で見えて体験することにより、働くことの意義や喜びを感じ、進路や将来について考えることができた。
- ② 不登校について、定期的に学校運営協議会委員の方々と意見交流した。ひとりひとりに応じた多様な学び場と自分らしく生きていくことが大切であると共有した。

(3) 教育から導育への提案

CS のテーマ「しあわせ関中計画」を目指し、奈良県の水平社博物館や西光寺にて人権学習に取り組んだ。また「いのちのかがやき」と題した教育懇談会を開催した。

(4) 広報による情報発信事業

定期的な通信の発行と学校ホームページの活用により、各種行事の場面等での本校における様々な取組を、保護者や地域に向けて発信した。また、冊子「やる気スイッチのありか」を学校運営協議会の考える子育てのヒントとして来年度入学する生徒の保護者に配付した。

3 成果と課題

【成果】

- ① 関中学校ホームページの更新や編集を工夫し、学校の取組みや学校運営協議会の取組みが広く伝わった。
《通信や懇談会等で様子が分かる 保護者 95%》
- ② 学年ごとに実施した様々な「出会い学習」や人権フォーラムを通して、自分の身の周りにある人権課題に気づき、考えようとする生徒の姿が見られた。
《人権学習の機会の充実に関する肯定的評価 生徒 99%》
- ③ 職場体験学習を実施し、事前にマナー講座も行われ、しっかりと取り組むことができた。
《進路学習の機会の充実に関する肯定的評価 保護者 94%》
- ④ CS のテーマを目指して定期的に不登校について意見交流し、ひとりひとりに応じた多様な学び場と自分らしく生きていくことが大切であると共有した。
- ⑤ 避難所開設訓練や新地区の自転車通学許可にあたり、地域連携を図ることができた。

【課題】

- ① 学校評価アンケート等から家庭学習の定着化・習慣化に課題があることが明らかになった。今後家庭・地域と連携し、全校体制による補充学習の充実を図る必要がある。
- ② 地域教育資源を活用した教育活動を積極的にすすめ、子どものがんばりを積極的に発信し、自己肯定感をもって主体的に実践行動できる生徒を育成する必要がある。
- ③ 将来の夢や目標を持つことができず、進路を決めきれずに悩む生徒がいた。教育相談を充実させ、家庭ともさらに連携をとり、生徒の進路実現に努める必要がある。



亀山市



令和7年3月 発行

亀山市教育委員会

〒519-0195 亀山市本丸町5-7-7 番地

TEL 0595-84-5076

FAX 0595-82-6161

E-mail kyoushien@city.kameyama.mie.jp